

加害の事実を伝える意義と平和のための学習

藤田秀雄先生 講演レジメ(2011.07.24 第10回神奈川証言集会)

I、加害の事実を伝える意義

1、ウイーンで —— 二つのユダヤ人博物館と「戦争とファシズムの戒めの記念碑」(王宮とオペラ座の間、1989年)

* 東京の記念碑はどうか → 西郷隆盛でよいか。

2、加害の学習をさまたげるもの

① 軍備拡大政策のため

② 否定的事実を認めたくないというナショナルな心情。—— その背後に日本以外のアジアの人たちに対する差別意識がある。

3、加害の事実の学習を重視するかどうかは日本人が他のアジアの人たちと真に連帯できるか、できないのかを決めるかぎである。

* 事実を認めようとしぬ国民を、被害を受けた国の人たちは信頼できないであろう。

II、戦争学習をさらに進めるために

1、戦争被害の学習は、ヒロシマ、ナガサキ学習や、東京大空襲学習などでよいか。

治安維持法を中心とする戦時体制の学習と戦後の抑留・引き上げ体験。

2、撫順戦犯管理所での事実を伝えること。

3、戦後の軍拡と戦争 —— 水爆実験、ベトナム戦争など。

4、以上を重視した、日本近現代史博物館の必要 ← 遊就館になぜ若者が集まるのか。

裏に続きます

Ⅲ、軍拡の学習と対立の解決 (conflict resolution) の学習

Ⅳ、平和のための行動の学習 —— <指示待ち>を超えるために

Ⅴ、もうひとつの平和問題 —— 原発事故から学ぶ

- 1、安全神話体制 —— 産・政・官・マスメディア・学校教育・社会教育・環境運動
- 2、がまんと「がんばれ」のナショナルな運動
- 3、大連立の危険性
- 4、アメリカ原子力艦の危険性無視

藤田秀雄先生 経歴

- 1931年 東京に生まれる
- 1949年 東京高校（旧制）1年終了、東大教養学部入学
- 1958年 東大大学院博士課程中退（社会教育専攻）
- 1958年～59年 東大・スタンフォード大共同研究助手
- 1959年～ 立正大学専任講師、助教授、教授。
北大、明治学院大、早大などで非常勤講師。
日本学術会議平和研連委員、第5福竜丸平和協会副会長
- 現在 立正大学名誉教授、
平和と文化をきずく会代表
平和のための学習、文化研究会

主要編著

『沖縄の叫び：ベトナム戦争の基地』（潮流出版）、『日本社会教育史』（エイデル研究所）、『平和学習入門（国土社）、『学習権保障の国際的動向』、『ユネスコ学習権宣言と基本的人権』（教育史料出版）
など